



表現力を工賃アップに

工賃向上は、福祉施設にとつても、施設を利用する障害のある人の自立にとっても重要な課題。特に、安定した工賃につながる食品製造はボピュラーで、いわば福祉作業所の王道とされきました。なかでも、宮城県は食品製造・加工が盛んな地域。多くの施設が食品製造や企業の下請けに携わる一方、アート活動やクラフトグッズ製作を行う施設は少なく、工賃アップの事例もほとんどありませんでした。

多夢多夢舎も、簡単な食品加工業やレストラン運営、クラフトグッズ製作などの試みを続け、工賃向上のためのきっかけを探していました。その一方で、施設をあげて注力してきたのが絵画や音楽、ダンスなどの表現活動です。ダンスの講師を招いて、本格的なプログラムを行うなど、文化の発信地としてさまざま

ざまな取り組みを行つてきました。エイブルアート・カンパニーとの協働の鍵となつたのも、こうした活動のなかで培われたメンバーの表現力、豊かな個性。なかでもブランド開発チームが注目したのは、ダンスをおどるメンバーのいきいきとした姿と、溢れんばかりのエネルギーでした。彼らのはじけるリズムと元気をそのまま商品にいかすという方向性は、これまで多夢多夢舎がはぐくんできた文化的な環境のなかで、いわば必然的に定まっていったのです。

そうして誕生した新プランド t a m t a m d o t のキヤツチコピーは「うたうおどるあそぶ」。商品のベースは米袋を再利用した封筒やポーチ、バックなどのクラフトグッズで、個性豊かなドッ



case.3 | 多夢多夢舎中山工房(宮城県仙台市)



仙台市青葉区にある就労継続支援B型事業所多夢多夢舎中山工房（以下、多夢多夢舎）は、比較的重度の障害をもつメンバーが多く、仙台市内で工賃が最安の施設でした。一方、絵画や音楽、ダンスなどの芸術活動を積極的に取り入れ、メンバーの個性を大切にはぐくんできました。そこで挑戦したのが、日々の文化活動のなかで磨かれたメンバーの感性をいかした商品づくりです。長年、芸術活動に取り組んできた施設だからこそ実現したブランド戦略は今、確実に成果をみせてています。

米袋にリズムを刻む
個性をいかしたものづくり